

町名の由来について…

公光町

きんみつちょう

公光の町名は、謡曲『雲林院』の主人公の名前からつけられました。むかし芦屋の里に公光という若者がいて、『伊勢物語』を愛読し、業平にあこがれる物語です。公光町の昔の小字の地名、申新田や樋の口は、新しくひらいた田や畑地につけられたものです。公光町は、芦屋が精道村とよばれていた大正時代、交通や道路などが整備されていくのにもとない、宅地造成がすすめられ、住宅地となりました。

大柵町

おおますちょう

町名につけられた大柵の小字名は、芦屋村と呼ばれていた頃、田畑に必要な水を引くためのかんがい用の池があったのでつけられたようです。柵は、水を引く樋のところに設けられた四角い箱の意味があります。大柵町は、大正時代のはじめごろは田畑と緑地が続いていましたが、終わりごろには住宅地の造成がすすみ、住宅と商店のまちになりました。本通商店街は、芦屋で最も歴史の古い商店街で、名前の本通は大正12年(1923)ごろにつけられました。

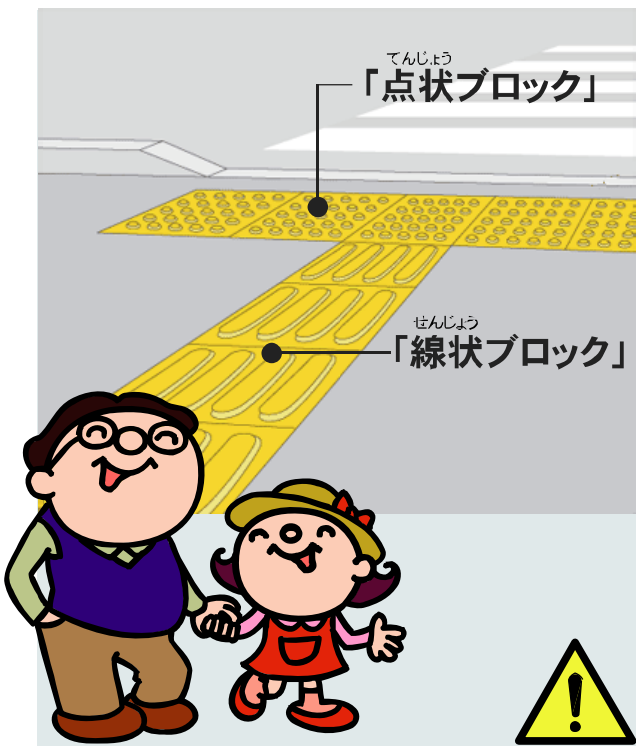
茶屋之町

ちややのちょう

茶屋之町の町名は、西国街道に關係ある茶屋芦屋によります。古い地図をみると、昔の西国街道が芦屋に入り、阪神国道(2号線)にまじわるところに茶屋之町があります。街道は、人びとの生活に深くつながるたいせつな道でたいへんにぎわいました。道中の旅人が休けいする茶屋があったと思われま。茶屋之町は、大正時代から昭和のはじめにかけて、田畑であったところに宅地造成がすすみ住宅地になりました。昭和3年(1928)8月には、「三八商店街」がひらかれています。

(「あしや子ども風土記 芦屋の地名をさぐる」より紹介)

点字ブロックの種類をご存じですか？



「点状ブロック」は、注意を示します。通常、「線状ブロック」の両端(横断歩道の手前・階段の手前・案内板の手前)や、交差する部分に設置されています。交差する場所、いったん停止して段差や扉を知らせるために設置します。

「線状ブロック」は、移動の方向を示します。進む方向に対してまっすぐに設置されますので、それに従うことで、容易に視覚に障がいのある方が移動できます。見えない状態でまっすぐ歩くのは難しく、壁や障害物にあたってしまうこともあります。そんな時に、進む方向をまっすぐに示すために設置します。

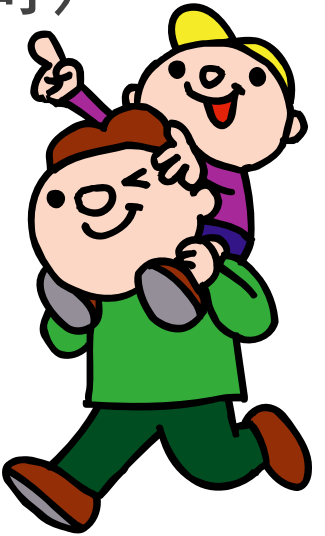
目の不自由な方が利用します。モノをおかないで!

はんしん あしや えき しやくしょ しゅうへん ちく
 阪神芦屋駅・市役所周辺地区
 しやかい じっせん ちく
 ユニバーサル社会づくり実践モデル地区

まちの魅力探し!

(公光町、大柵町、茶屋之町)

わたしたちの阪神芦屋駅・市役所周辺の地区は、「ユニバーサル社会づくり実践モデル地区」として兵庫県より指定され、平成21年3月に「芦屋市ユニバーサル社会づくりモデル事業プラン」を策定しました。今日は、この事業プランに基づき、まちの案内システムづくりに向けた取り組みを進めるために、「まちの魅力探し」をみなさんとともにやりたいと思います。



ユニバーサル社会づくりとは…

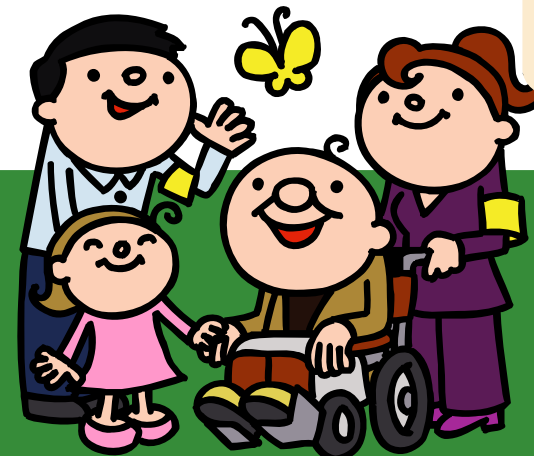
いま、障がいの有無や年齢などにかかわらず、だれもが、同じ地域社会で生活する者として、主体的に生き、社会の支え手となるユニバーサル社会の構築が求められています。

このユニバーサル社会づくりに向けて、市民、地域団体、企業、行政など地域社会を構成するすべての人が、力を合わせ一体となって進めていく必要があります。

事業プランの整備目標…

だれもが安全・安心に、そして快適に暮らせるまちづくりをめざし、すべての人々がともに支えあう社会づくりを進めます

- 心のバリアフリーを進めます
- 一度は訪れてみたいと思う美しいまちづくりとユニバーサルデザインの調和をめざします
- 役割分担を明確にし、事業の推進をめざします



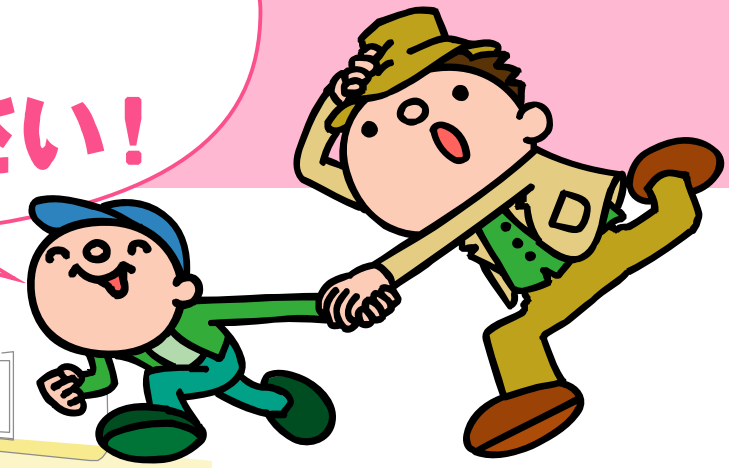
開催日:平成21年11月6日(金)、7日(土)

主催:ユニバーサル社会づくり実践モデル地区協議会

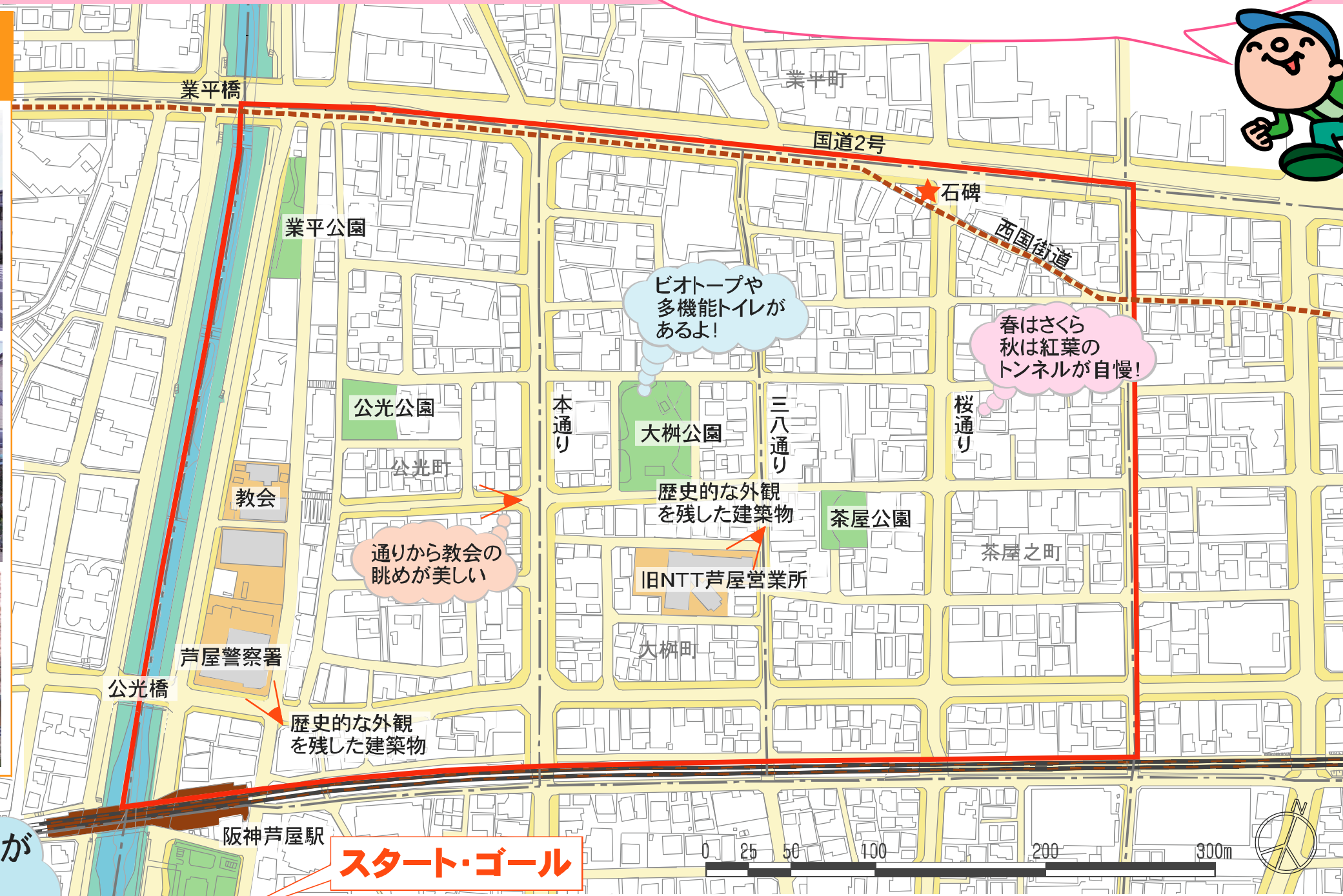
後援:芦屋市

まちあるきマップ

みなさんでまちの
魅力を見つけてください!



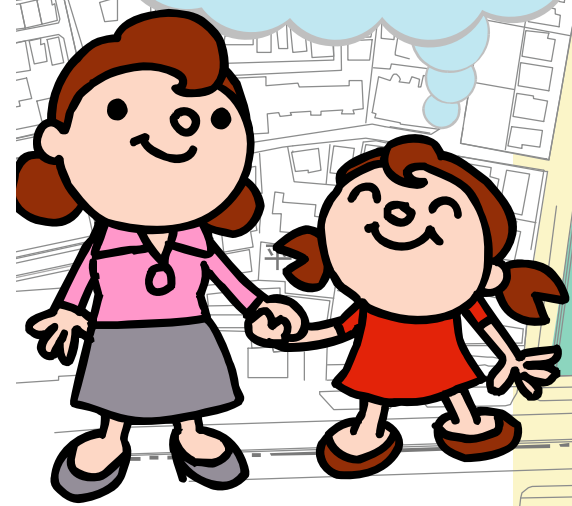
おもむきの異なる 3つの通り



特徴ある 3つの公園



歩きやすい通りが
たくさんあるね



スタート・ゴール

わたしたちのまちはこんなまち

1 古くから居住者と商業者が
共存してきたまち

○古くからの商店街としての芦屋市本通り商店会、三八通り商店会などを中心に、近年新しい店舗が増えた茶屋之町の桜通りなど、活気にあふれた商業のまちであるとともに、利便性の高い住宅地として発展してきたまちです。

○これまでも、居住者と商業者が共存しながら、まちを形成してきました。

2 道路や公園など基盤整備が
なされたまち

○阪神・淡路大震災によりまちは大きな被害を受けました。道路・公園等の都市基盤が脆弱であったことから、当地区の大部分は、震災復興土地区画整理事業により、安全で快適な市街地の復興を進めてきました。

○現在、ほとんどの住宅や店舗が再建され、道路・公園も整然と整備された新しい街に生まれ変わっています。

3 バリアフリー整備が進むまち

○大半のエリアが、芦屋市交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に位置づけられており、また、土地区画整理事業による都市基盤整備でバリアフリー整備もなされています。

○駅や市役所等のバリアフリー化や土地区画整理事業以外の道路などの段差解消など、現在もハード面での整備が進んでいます。